

教科	国語	科目	論理国語	学年	2年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	新編 論理国語			出版社名	大修館書店	
	副教材	常用漢字クリア(尚文出版)					

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 2 論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを深めます。 3 言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養います。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 第I部：論理を培う 1 論理と出会う 知の登山、知の水路	○ 叙述を基に筆者の主張を的確に捉えて、「学ぶ」ということについて自分の考えを深めます。	中間考查 期末考查
	5月 2 具体と抽象 ウサギの耳はなぜ長い? 記号的メディアと物理的メディア	○ 具体例の役割を意識して読み、論理の展開を的確に捉えます。 ○ 具体と抽象の関係について理解を深め、筆者の主張を読み取ります。	
	6月 3 対比をとらえる 対話の精神	○ 対比の役割を意識して本文を読み、対比の効果について理解を深めます。	
	7月 デジタル地図から見える世界	○ 対比の関係に着目して論理の展開を捉えて、文章の要旨を的確に読み取ります。	
2学期	8月 4 主張をつかむ 人工の自然 「考える葦」であり続ける	○ 主張と根拠の関係を意識して本文を読み、論理の展開を捉えます。 ○ 筆者の主張を支える根拠に着目して本文を捉え、要旨を把握します。	中間考查 期末考查
	9月 要約の方法	○ 文章のキーワードや、主張と根拠の関係を的確に捉えて要約します。	
	10月 5 論理的に書く—小論文① 根拠をふまえて主張を書こう 構成を考えて書こう	○ 根拠を明示しながら主張を述べ、論理的な文章を書きます。 ○ 基本的な小論文の型を理解し、説得力のある文章を書く練習をします。	
	11月 6 統計資料を活用する 量の時代から質の時代へ	○ 統計資料と筆者の主張の関係を的確に捉えて、文章の要旨を読み取ります。	
12月 若者の「海外旅行離れ」は本当か?	○ 文章と統計資料の関係を的確に読み取り、データのまとめ方によって主張が変わることを理解します。	期末考查	
3学期	1月 7 比べて読む 「言葉の揺れ」を認めるか	○ 二つの意見の相違点と共通点を整理し、自分の意見を文章にまとめます。 ○ 論理の展開を意識して文章を読み取り、筆者の主張を的確に捉えます。	学年末考查
	2月 紙の本はなくならない 情報化と紙の本のゆくえ	○ 異なる立場の文章を比べて読み、自分の考えを深めます。	
	3月 8 レポートを書く	○ 読者を意識し、構成や記述に配慮しながら、読みやすくわかりやすいレポートを書きます。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身に付いている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習をしっかりとしましょう。配布されたプリントは、家庭で自分の力で解きましょう。 2 忘れ物をせず、授業に集中しましょう。忘れ物をすると意欲と理解力が低下します。 3 考查前には、配布されたプリントを見直すなどして必ず復習をしましょう。

教科	国語	科目	古典探究	学年	2年(普通科 探究類型、教養類型)	単位数	2
教材	教科書	新編古典探究			出版社名	東京書籍	
	副教材	ダブルマスター古典文法+漢文句形					

学習の目標	1	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、伝統的な言語文化に対する理解を深めます。
	2	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばします。
	3	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 古文編 I 部 1 説話に親しむ 漢文編 I 部	○ 和歌を含んだ説話を読み取り、展開の面白さを捉えます。 ○ 漢文の読み方を確認し、平易な文章の内容を的確に読み取ります。	中間考査
	5月 1 故事と小話		
	6月 古文編 I 部 2 随筆を読む		
2学期	7月 漢文編 I 部 2 唐詩と文	○ 随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ります。 ○ 語句の意味や修辞に注意して内容を読み取り、ものの見方や感じ方を広げます。 ○ 作り物語の内容を叙述に即して読み取って、そこに表れた人々の思いを捉えます。 ○ 語句の意味や修辞に注意し、叙述に即して、登場人物の行動や心情を的確に読み取ります。 ○ 他の作品との関係も踏まえながら日記を読み、作者の心情を的確に捉えます。 ○ 和歌を多面的・多角的な視点から評価することを通して、言語文化についての考えを深めます。	期末考査
	8月 古文編 I 部 3 作り物語を読む		
	9月 漢文編 I 部 3 史記を読む		
	10月		
	11月 古文編 I 部 5 日記を読む		
3学期	12月 古文編 I 部 4 和歌の世界	○ 古代中国の様々な考え方に触れ、寓話や故事成語の意味について理解を深めます。 ○ 朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりします。 ○ 登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について理解を深めます。	学年末考査
	1月 漢文編 I 部 4 中国の知恵		
	2月 古文編 I 部 6 軍記物語を味わう		
3月 漢文編 I 部 5 三国志の世界			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習をしっかりとしましょう。配布されたプリントは、家庭で自分の力で解きましょう。 2 忘れ物をせず、授業に集中しましょう。忘れ物をすると意欲と理解力が低下します。 3 考査前には、配布されたプリントを見直すなどして必ず復習をしましょう。

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年	2年(普通科 教養類型、探究類型)	単位数	2
教材	教科書	高校生の地理総合			出版社名	帝国書院	
	副教材	準拠ノート(帝国書院)					

学習の目標	1 様々な地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図等を利用する技能を身に付けます。 2 地球的課題が互いに関係合っていることを理解し、持続可能な取組について考えます。 3 人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 第1部 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図	○ 地球儀や様々な地図から地図や地理情報システムの役割や有用性を理解します。	中間考査
	5月 2節 地図と地理情報システム 2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域	○ 領土問題、世界の国々の結びつきについて地図を通して多面的・多角的に考察し表現します。	
	6月 2節 地図から見る国内や国家間の結びつき 第2部 1章 生活文化の多様性と国際理解	○ 世界の生活文化の多様性の背景や世界の生活文化の相互関係を見いだすための地理的見方・考え方を身に付けます。	
2学期	7月 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活		期末考査
	8月 3節 世界の産業と人々の生活 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	○ 世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現します。	
	9月 5節 多様な生活文化と地理的環境 ・東アジア ～ アフリカ ・ヨーロッパ ～ アメリカ ・オセアニア	○ 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだします。	
	10月 2章 地球的課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球的課題 2節 食料問題	○ 世界を構成する国家の領域の定め方や、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解します。	
	11月 3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題		
	12月 6節 地球環境問題		
3学期	1月 3部 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境	○ 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解します。	学年末考査
	2月 2節 地震・津波や火山活動による災害と防災 3節 気象災害と防災		
	3月 4節 自然災害への備え 2章 生活圏の調査と地域の展望	○ よりよい社会を築いていくために必要なことを主体的に追究していきます。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動や発言、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 主体的に教科書を読むなど、授業の中で分からないことを解消させていきましょう。 2 小テストや定期考査に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 提出物は期限を守って必ず提出するようにしましょう。

教科	公民	科目	公共	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高等学校 新公共			出版社名	第一学習社	
	副教材	最新公共資料集2023(第一学習社)、2023公共ワークブック(高教研)					

学習の目標	1	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論の理解を深めます。
	2	事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力や構想したことを議論する力を育てます。
	3	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育てます。

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	○ 社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により公共的な空間を作る存在であることを理解します。	中間考査 期末考査
	5月 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		
	6月 第3章 公共的な空間における基本的原理	○ 法に基づいて各人の利害を調整することなどを通して、権利が自由が保障され、社会秩序が維持されていくことを理解します。	
	7月 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち		
2学期	8月	○ よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解します。	中間考査 期末考査
	9月		
	10月 第2章 政治的な主体となる私たち	○ 公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることや、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解します。	
	11月		
12月 第3章 経済的な主体となる私たち			
3学期	1月	○ 持続可能な地域や国家づくりに向けた役割を担う自立した主体となることに向けて、現代の諸課題を探究する活動を行います。	学年末考査
	2月		
	3月 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れたりしながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 授業の前に、教科書の予習(通読)をしましょう。 2 授業中の説明に集中し、分からないこと、疑問点は質問しましょう。 3 新聞やニュースなどで、時事問題に興味・関心を持ちましょう。
-----------	---

教科	数学	科目	数学Ⅱ	学年	2年(普通科 探究類型 理系)	単位数	4
教材	教科書	新編 数学Ⅱ			出版社名	数研出版	
	副教材	基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B (数研出版)					

学習の目標	1 いろいろな式、図形と方程式、様々な関数及び微分・積分の考えについての理解を深めます。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を身に付けます。 3 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養います。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1 学期	4月 第1章 式と証明 第1節 式と計算	○多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について学習します。	中間考査
	5月 第2節 等式・不等式の証明	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式の証明を学習します。	
	6月 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	○数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにします。	
	7月 第2節 高次方程式	○剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにします。	
2 学期	8月 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	○直線の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにします。	中間考査
	8月 第2節 円	○円の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用できるようにします。	
	9月 第3節 軌跡と領域	○条件を満たす図形や領域を理解し、事象の考察に活用できるようにします。	
	10月 第4章 三角関数 第1節 三角関数	○三角関数に関する様々な性質について多面的に考察できるようにします。	
	10月 第2節 加法定理	○三角関数の加法定理について理解し、事象の考察に活用できるようにします。	
	11月 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	○指数関数について理解し、事象の考察に活用できるようにします。	
12月 第2節 対数関数	○対数関数について理解し、事象の考察に活用できるようにします。	期末考査	
3 学期	1月 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	○微分係数や導関数の意味を理解し、その有用性を認識できるようにします。	学年末考査
	2月 第2節 関数の値の変化	○導関数の理解を深めるとともに、その有用性を認識できるようにします。	
	3月 第3節 積分法	○積分の考えについて理解し、その有用性を理解するとともに、事象の考察に活用できるようにします。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数を利用して事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

評価の方法	定期考査の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。
-------	---

学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えたりしましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。
-----------	--

教科	数学	科目	数学B	学年	2年(普通科 探究類型 理系)	単位数	2
教材	教科書	新編 数学B			出版社名	数研出版	
	副教材	基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B 改訂版(数研出版)					

学習の目標	1	数列、確率分布と統計、数学と社会生活についての理解を深めます。
	2	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を身に付けます。
	3	数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	○数列の基本的内容や等差数列、等比数列の一般項やその和を理解し、その活用ができるようにします。 ○様々な数列について理解し、その活用ができるようにします。 ○漸化式や数学的帰納法について理解し、その活用ができるようにします。	中間 考査 期 末 考査
	5月			
	6月	第2節 いろいろな数列		
	7月	第3節 漸化式と数学的帰納法		
2 学期	8月	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	○確率分布とそれに従う確率変数について理解し、期待値や分散の求め方を学習します。 ○二項分布や正規分布において、期待値や分散、標準偏差を求めることができるようにします。 ○統計的な調査の方法について学習し、母集団と標本について理解します。 ○データの代表値を活用して、推定や仮説検定を行うことができるようにします。	中間 考査 期 末 考査
	9月			
	10月			
	11月	第2節 統計的な推測		
	12月			
3 学期	1月	第3章 数学と社会生活	○日常生活における問題や社会問題に対して、数学的に活用して考察する方法を学習します。	学 年 末 考 査
	2月			
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		数列、統計の考え方や推測の方法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数列の中にある規則性に着目し、論理的に考察する力、確率分布の概念をもとに様々なデータを整理・分析したり、一部のデータから全体を推測したりする力、数学と社会生活との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。
評価の方法	定期考査の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。		
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。		

教科	理科	科目	物理基礎	学年	2年(普通科 探究類型 理系)	単位数	2
教材	教科書	物理基礎			出版社名	実教出版	
	副教材	ベストフィット物理基礎(実教出版)					

学習の目標	1 身近に見られる物理現象に興味・関心を持つ。 2 観察・実験を通して、物理学を探究する能力と態度を身に付ける。 3 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 第1章 物体の運動 1節 運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 速度・加速度について学びます。 ○ 落体の運動について学びます。 	中間考查
	5月		
	6月 2節 力と運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> ○ 力とそのはたらきについて学びます。 ○ 運動の法則について学びます。 	期末考查
	7月		
2学期	8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事について学びます。 ○ 力学的エネルギーについて学びます。 	中間考查
	9月 第2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー		
	10月 2節 熱		
	11月 第3章 波 1節 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> ○ 波と媒質の運動について学びます。 ○ 波の伝わり方について学びます。 	期末考查
	12月 2節 音波		
3学期	1月 第4章 電気 1節 物質と電流	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電流と電気抵抗について学びます。 	学年末考查
	2月 2節 磁場と電流		
	第5章 物理と社会 1節 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ エネルギーの利用について学びます。 	
	3月 終章 物理学が拓く世界		

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを行うことを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらの事象・現象に対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度や科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価の方法	定期考查の得点と実験ノートや課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業に集中して取り組みましょう。 2 問題集を活用し、知識の定着を図りましょう。 3 定期考查には全力で臨みましょう。		

教科	理科	科目	化学	学年	2年(普通科 探究類型 理系)	単位数	2
教材	教科書	化学 Vol.1 理論編 Vol.2 物質編			出版社名	東京書籍	
	副教材	化学基礎・化学問題集(高教研理科部会化学部門編)					

学習の目標	1	化学的な事物・事象に関わり、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
	2	化学的な事物・事象を観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
	3	日常生活や社会の化学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1 学期	4月	化学基礎の復習 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ○酸・塩基の強さと表し方を復習します。 ○中和反応の量的関係を復習します。 ○酸化剤・還元剤の働きと酸化数、酸化還元反応、金属のイオン化傾向について復習します。 ○物質の状態とその変化を粒子の運動とエネルギーを通して学びます。 ○気体の種類に関係なく、成立する圧力や温度と体積の関係を学びます。 	中間考査
	5月	酸化還元反応		
	6月	1編 物質の状態 1章 物質の状態		
	7月	2章 気体の性質		
2 学期	8月	3章 溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> ○溶解の仕組みを理解し、希薄溶液に見られる性質について学びます。 ○物質を構成する原子、イオン、分子などの様々な結合と性質を学びます。 ○化学反応や状態変化に伴う熱の出入りをエネルギーの観点から学びます。 ○電池と電気分解の仕組みを理解し、電極で起こる変化を酸化還元反応として学び工業的な利用法についても学びます。 	中間考査
	9月	4章 固体の構造		
	10月	2編 化学反応とエネルギー		
	11月	1章 化学反応と熱・光		
	12月	2章 電池と電気分解		
3 学期	1月	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ	<ul style="list-style-type: none"> ○化学反応の速さの違いやその表現方法について学びます。 ○化学平衡の概念を理解し、化学反応の仕組みとともに学びます。また工業的な製造過程における化学平衡の利用について学習します。 ○電離について化学平衡の観点から学習します。 	学年末考査
	2月	2章 化学平衡		
	3月	3章 水溶液中の化学平衡		

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	実験・観察などを通して、基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	主体的に関わり、見通しをもった振り返りなど、科学的に探究しようとしている。

評価の方法	定期考査の得点と実験ノートや課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業には前時の復習をして臨みましょう。 2 復習や授業で生じた疑問点は質問するなど早い段階で解決しましょう。 3 課題や小テストで知識や技能の定着を図りましょう。
-----------	---

教科	保健体育	科目	体育	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。 2 課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。 3 公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にする資質や能力を育てます。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 1 体づくり運動	○ 南校体操、補強運動や集団走を正確に身に付けます。	中間考查 期末考查
	5月 2 陸上競技	○ 集団行動を通し、協力、責任、参画に対する意欲を高めます。	
	6月 3 球技Ⅰ	○ 体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	7月 4 体育理論	○ バレーボール、ソフトボール、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
2学期	8月 5 体づくり運動 ダンス	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	中間考查 期末考查
	9月 6 陸上競技	○ 運動会の集団演技の練習を行う中で、集団の中での協調性を養います。	
	10月 7 球技Ⅱ(その①)	○ 長距離走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	12月 8 体育理論	○ バasketボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
3学期	1月 9 体づくり運動	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	学年末考查
	2月 10 球技Ⅱ(その②)	○ 集団行動を通して、計画的な実践、協力、責任などに対する意欲を高めます。	
	3月 11 体育理論	○ バasketボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	運動の合理的、計画的な実施を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能が身に付いている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決方法を思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

評価の方法	授業態度、出席点、スキルテスト、記録、定期考查の得点等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 「鍛」を目標に体力・気力の充実を図り、たくましく生きる力を身に付けていきましょう。 2 積極的に参加し、自主的に協調性をもって行動しましょう。 3 一人一人が健康と安全に留意して臨みましょう。
-----------	--

教科	保健体育	科目	保健	学年	2年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	1
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	生涯を通じて自他の健康の保持増進を行うための資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	3単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康	○ ライフステージと健康の関連について理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	5月	2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択	○ 思春期の健康について理解します。 ○ 性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響することについて理解します。	
	6月	4 妊娠・出産と健康	○ 妊娠・出産の健康課題について理解します。	
	7月	5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康	○ 家族計画の意義について理解します。 ○ 健康的な結婚生活について理解します。 ○ 中高年期の健康について理解します。	
	8月	8 働くことと健康	○ 労働者の健康課題について理解します。	
	9月	9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	○ 労働災害について理解します。 ○ 余暇の重要性について理解します。	
	10月	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康	○ 大気汚染の問題について理解します。	
2 学期	11月	2 水質汚濁、土壌汚染と健康	○ 水質汚濁、土壌汚染について理解します。	中間 考査 期 末 考 査
	12月	3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備	○ 環境汚染について理解します。 ○ ごみ処理の現状について理解します。	
	1月	5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	○ 食品の安全性について理解します。 ○ 食品衛生について理解します。	
	2月	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医療品の制度とその活用	○ 保健行政について理解します。 ○ 医療サービスについて理解します。 ○ 医薬品の制度について理解します。	
	3月	10 さまざまな保健活動や社会対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	○ 様々な保健活動や社会対策について理解します。 ○ 健康の保持増進のための環境づくりについて理解します。	
	3 学期	1月	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医療品の制度とその活用	
2月	10 さまざまな保健活動や社会対策	○ 様々な保健活動や社会対策について理解します。		
3月	11 健康に関する環境づくりと社会参加	○ 健康の保持増進のための環境づくりについて理解します。		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価の方法	定期考査の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業で学習した内容を積極的に日常生活に取り入れるように心掛けましょう。 2 保健や健康についての新聞やニュースに気を配り、日頃から健康について関心を持つようにしましょう。		

令和5年度 愛媛県立今治南高等学校 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年	2年(普通科)	単位数	4
教材	教科書	All Aboard! English Communication II			出版社名	東京書籍	
	副教材	WORD-MASTER ワードマイスター 英単語・熟語 1700 (第一学習社) チャート式 BIG DIPPER ビッグ・ディッパー 高校英語 (数研出版)					

学習の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。 2 物語や説明文などを読んで、情報や書き手の考えなどを的確に理解する力を伸ばします。 3 基本的な語句や文を使って話したり、書いたりして、英語を用いて伝える力を伸ばします。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 Lesson 1 A Colorful Island	○ イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、島の特色について学習します。	中間考査 期末考査
	5月 Lesson 2 With the Beatles	○ ラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習します。	
	6月 Lesson 3 Wild Men	○ 「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考えます。	
	7月 Lesson 4 Little Hero	○ ハチドリのお話を通して、不断の努力と不屈の心について考えます。	
2学期	8月 Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	○ 日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習します。	中間考査 期末考査
	9月 Lesson 6 Seeds for Future Generations	○ 海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考えます。	
	10月 Lesson 7 Over the Wall	○ 世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習します。	
	11月 Lesson 8 Inspiration from Nature	○ 生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習します。	
3学期	1月 Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	○ チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態	学年末考査
	2月 Lesson 10 Fighting Angel	○ 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習します。	
	3月 Reading Bear's Pie	○ 「ある小さな店を営む夫婦には、10年前に家を出た息子がいた」という朗読劇の結末を考えて、それを朗読しま	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 日常的话题や社会的な話題について書かれた文の内容を捉える技能を身に付けている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して表現する技能を身に付けている。	日常的话题や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりして、書き手や話し手の意図や概要、要点を捉えている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手、読み手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて表現し、コミュニケーションを図ろうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切に、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしましょう。
-----------	--

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	学年	2年(普通科 探究類型、教養類型)	単位数	2
教材	教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ		出版社名	開隆堂		
	副教材	チャート式 BIG DIPPER ビック・ディッパー 高校英語(数研出版)					

学習の目標	1 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、読み手や目的に応じて簡潔に書く力を育成します。 3 学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめて発表する力を育成します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 Lesson 1 Reflections Before Starting a New Life	○現在と過去を表す表現、昨年頑張ったことや今年の目標を発表します。	中間考査 期末考査
	5月 Lesson 2 Let Your Dreams Come True	○未来を表す表現、自分の夢を発表します。	
	6月 Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Medea	○助動詞、SNSの使い方をグループで話し合い、発表します。	
	Lesson 4 Future Prospects	○完了形、自分が予想する未来の社会について発表します。	
	7月 Lesson 5 Let's Keep in Good Shape	○受動態、健康のために自分が習慣にしたい行動を発表します。	
2学期	8月 Lesson 6 Energy Consumptions in the World	○比較①、世界の国々のエネルギーについてグループで発表します。	中間考査 期末考査
	9月 Lesson 7 Voter Turnout in Comparison	○比較②、日本の投票率の問題点と解決方法についてグループで話し合います。	
	10月 Lesson 8 What Has Impressed Me the Most	○動名詞、自分が感銘を受けた作品を紹介するポスターを作ります。	
	Lesson 9 Sports for Everybody	○to不定詞、「だれもが一緒に楽しめるスポーツ」をグループで考え、発表します。	
	11月 Lesson 10 The Latest News from around the World	○分詞、ペアで興味のあるニュースについて調べ、ニュース番組にして発表します。	
12月 Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others	○関係詞①、ボランティアを募集する広告を作ります。		
3学期	1月 Lesson 12 Learn about Other Countries and People	○関係詞②、移住したい国についてのクイズを作り、発表します。	学年末考査
	2月 Lesson 13 Global Issues	○仮定法、環境問題や社会問題の解決方法について、自分のアイデアを発表します。	
	3月 Lesson 14 Food Culture around the World	○特殊構文、興味のある国の食文化についてグループで調べ、発表します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いて表現活動を行おうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切に、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしまししょう。
-----------	---